

## Comparison of the characteristics, morbidity, and mortality of COVID-19 and seasonal influenza: a nationwide, population-based retrospective cohort study

Piroth L et al. Lancet Respir Med. 2020 Dec 17;S2213-2600(20)30527-0.

全文 URL : [https://www.thelancet.com/journals/lanres/article/PIIS2213-2600\(20\)30527-0/fulltext](https://www.thelancet.com/journals/lanres/article/PIIS2213-2600(20)30527-0/fulltext)

### COVID-19 と季節性インフルエンザの比較 背景情報・罹患率・致死率 — 国民データベースによる後ろ向きコホート研究 —

筆者らは French national administrative database (PMSI) を用い nationwide population based retrospective cohort study を実施した。PMSI は、フランスの全入院患者の退院サマリーを含むデータベースである。2020/3/1-2020/4/30 の期間に COVID-19 で入院した全患者と 2018/12/1-2019/2/28 の期間にインフルエンザで入院した全患者が組み入れられた。COVID-19 とインフルエンザで入院した患者のリスクファクター、臨床情報、アウトカムを比較した。

観察期間中、COVID-19 患者 89,530 人、インフルエンザ患者 45,819 人が入院し対象となった。患者年齢の中央値は、COVID-19 で 68 歳（四分位 52-82）、インフルエンザで 71 歳（四分位 34-84）であった。COVID-19 患者では、インフルエンザ患者と比較し、肥満、糖尿病、高血圧、脂質異常症が多かった一方、心不全、慢性呼吸器疾患、肝硬変、栄養性貧血が少なかった。COVID-19 患者では、インフルエンザ患者と比較し、急性呼吸不全、肺血栓塞栓症、敗血症性ショック、脳出血の発症が多く、心筋梗塞や心房細動の発症が少なかった。

院内死亡割合は、COVID-19 患者で高く、死亡の相対リスクは 2.9 (95%CI 2.8-3.0)、年齢調整死亡率比は 2.8 であった。18 歳未満の患者の割合は COVID-19 で低かったが、5 歳未満で集中治療を要する患者は、COVID-19 で高かった (14 [2.3 %] vs 65 [0.9 %])。11-17 歳の若年患者層における院内死亡割合は、COVID-19 でインフルエンザの 10 倍高く (5/458 [1.1 %] vs 1/804 [0.1 %])、COVID-19 ではより肥満、過体重が多かった。

入院を要した COVID-19 患者とインフルエンザ患者の臨床的特徴はかなり異なっていた。

#### 要約作成者のコメント：

COVID-19 とインフルエンザとを記述疫学的に比較した研究です。当然ですが、ワクチンや治療薬などの“対策が比較的になされた状況”でのインフルエンザ流行期と“対策が不十分な”COVID-19 流行期での比較であり、病原性の比較として成立しないことには注意が必要です。また、フランスでのデータであり、我が国のデータとの相違点も存在すると推察されます。しかし、入院を要す COVID-19 患者は、これまでのインフルエンザ患者と比べ重篤であることを示した貴重な報告と考え紹介しました。

要約作成者：飯塚病院 腎臓内科/臨床研究支援室 佐々木彰